

むなしく消えて行く様な気分

時は無情に進む。

人は、時間を止めたり、早めたりする事ができない。過去に再び戻る事もできないし、また、未来に行くこともできない。なくてもいい時は時間は長く、長くあつてほしい時は短い。

もし、人間が自分の一生涯の生きる時間をあらかじめ、蓄えとして持ち、必要な時だけに、時を使うことが出来たら、すなわち、必要な時だけ、時を過ごす事ができたら、何と無駄のない日々を送る事が出来ようか。

魔法の時計で、針を早めたぶん、時がジャンプして、早く、未来に行ったり出来たらいいなあと思う。

それでも、僕の生きる全体の寿命の長さは固定とする。その固定の僕の時間を未来と過去の望む時刻に使ってもいいとなれば、どんなすばらしい、人生を僕は送ることになるだろうか。

永遠に生き続けようとするなら、時間を使わなければよい。

しかし、これは考えられないのが現実だ。今日も一日、むなしく消えて行く様な気分。

ああ、悲しい。

風呂に入り、少し、学校の明日の予習した。

早く、床に入り、後は寝るしかない。

今日は一日雪で、大変寒い。雪が積もって、真っ白である。窓の外から見ると、たんばは、雪が積もって、真っ白である。